

# 小田原

広

報

まちづくり情報誌

2001 11月号  
11/1

平成13年11月1日発行  
No.806

17



17

24 ▷ 17A

21世紀のあたらしいまちづくり  
(副)西さがみ連邦共和国、建国！





箱根町 (富士山と芦ノ湖と鳥居)



小田原市 (銅門 小田原城天守閣)



湯河原町 (湯河原梅林 新山公園)



真鶴町 (三ツ石 日の出)

# 21世紀の西さがみを デザインするために

小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町

～「(仮称)西さがみ連邦共和国」建国～

◎まちづくりデザイン課 ☎33-1379

歴史的にも生活圏としても古くから結びつきの深い小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町。この1市3町では、「(仮称)西さがみ連邦共和国」を建国し、21世紀にふさわしい新たな視点で、まちづくりの可能性を探っていくことにしました。今、このまちには何が 필요한のか、私たちは何をすればいいのか。(仮称)西さがみ連邦共和国は21世紀の西さがみを考えます。

## 社会環境の変化と市町村合併への動き

21世紀を迎えた今、日本は社会全般にわたって「改革」が叫ばれるようになりまし。そのような中、地方行政に目を向けると、これまでの行政枠を越えた「広域連携」や「市町村合併」が議論されるようになってい。交通機関や情報網の発達では人々のライフスタイルを変え、生活圏は現在の市町村の区域を超えて広がっていったのです。

国では、財政移過措置や小規模市町村の交付税削減など、市町村合併を進める政策を打ち出しました。複数の市町村が合併すると、職員数などの削減、有効な土地利用、道路整備、環境問題、観光振興など、広域のまちづくりができるようになるメリットがあるとされています。この国の動きに合わせて、全国でも別府市の市町村が、合併を視野に入れた研究会や勉強会を立ち上げました。

### 連邦共和国が目指すもの

市町村合併は一方で、固有の歴史・文化・伝統や、サビトスのきめ細やかなどが失われる懸念があるとも言われています。したがって、市町村はこれら合併のメリット・デメリットを広く研究し、住民の皆さんとともに、自分たちのまちがどの方向に向かっているのか、真剣に考えていく必要があります。そのためには、住民の皆さん、方向性を決めるための基となる確定的情報を提供していくことが大切になってきます。このような背景を受けて生まれたのが、「仮称 西さがみ連邦共和国」なのです。

連邦共和国では、広域連携を深める作業や研究を進めることで、1市3町の担当部署が

住民の皆さんに正確な情報を提供していきます。市町村合併に関する研究も行います。市町村合併を推進しようという動きもあるなか、単に合併だけを議論するのではなく、「西さがみ」という地域が進むべき方向はどのくらいか、またそのために何をすればいいのかを、連邦共和国では議論していきます。

しかし最終的な判断は、住民である私たちがしなくてはなりません。自分たちの町の将来は、自分たちで選ばなくてはならないのです。連邦共和国は単なる研究会ではありません。21世紀のまちのあり方を考えるにあたって、1市3町がキャッチボールを続けている、新しいホームグラウンドなのです。

### 連邦共和国の取り組みと事業とは

#### ① 事務事業の協働化

地域の活性化、住民の皆さんの利便性の向上などを目指し、事務事業の協働化を検討・実践していきます。

#### ② 職員研修・人事交流

市町間の人事交流を図り、新しい広域連携を支え、担う人材を育成していきます。

#### ③ 広域連携と市町村合併についての研究

新しい広域連携のあり方を研究するとともに、市町村合併に関するメリット・デメリット、課題・問題点などについて情報収集・整理を行い、これらの情報を住民の皆さんに的確に提供します。

#### ④ フォーラムの開催

地域の将来像や今後のまちづくりを考え、いく機会となるよう、フォーラムを開きます。

1市3町では、広報紙などを通じて、(仮称)西さがみ連邦共和国の最新の動きについて、随時お知らせします。

## 建国フォーラム

日時 11月19日(明)13時30分～17時  
場所 小田原市中央公民館ホール  
内容

- ・(仮称)西さがみ連邦共和国調印セレモニー
  - ・基調講演
  - ・パネルディスカッション
- 対象 1市3町在住・在勤の5,000人  
※詳しくは、広報おだわらいふ11月15日号  
でお知らせします。

①まちづくりデザイン課 ☎331379

### 大好評だった建国フレイベント

#### 「白銀林道ウォーク」

建国フォーラムに先立ち、フレイベントとして、9月24日、1市3町の首長・議員・職員ほか総勢85人が参加し「白銀林道ウォーク」を行いました。



雲ひとつない青空のもと、富士山を背に出発。1市3町をつなぐ林道からは眼下に相模湾や真鶴半島を望むことができ、参加者は汗を流しながら、西さがみの自然環境の豊かさを共感し、秋のウォークを楽しんでいました。一足先に自治体関係者が一体感を醸成できた一日でした。

- ①花 ②木 ③鳥
- ④人口(平成12年国勢調査) ⑤面積
- ⑥かながわの名産100選



天然の木のおおらかさと、匠の技の光る伝統工芸「小田原漆器」。11月は漆愛用月間です。この機会に、小田原が育てた漆器の奥深い魅力にふれてみましょう。

# うるしのある生活

◎産業政策課 33-1-5-15

## 小田原が生んだ究極の技

市内早川に木地挽という地名があります。平安時代、京都のろうくろ師集団が小田原に付着し、関東木地挽きという木工が生まれました。これがこの地の由来。まさに芸術ともいえる木地挽き技術の歴史はここから始まったのです。

室町時代中期には、櫛などの天然木に生漆を何度も塗り込み木目の美しい木の器を作り出す技術が加わりました。これが小田原漆器の起源と言われています。

漆器といえは、漆や蒔絵・螺鈿といった、加飾自体が主役になるのが一般的ですが、小田原では卓越したろくろ技術が基となり、木目を最大限に生かした木地の美しさを引き立てる技が成熟したのです。小田原漆器はその美しさだけでなく、強固でゆがむことが少ない性質も、もう一つの特徴となっています。

## 挽きと塗りの絶妙さ

小田原漆器は、ろくろを使った

挽きの技術と漆を使った塗りの技術があつて、はじめてその美しさが引き立ちます。どちらが欠けても成り立ちません。みことなまでに挽いた美しい木目を生かすための塗りもまた、とても大切な仕事なのです。

小田原漆器の塗りには、生漆を刷毛で木目に擦り込んでいく「摺塗」と、木地の木目をあざやかに黒く引き立たせる「木地呂塗」の2種類があります。100年でも乾き続けると言われる漆は年数が経つごとに、木目がくっきりと浮かび上がり、美しさを増していきます。

木地師が引き出した木目の美しさをそのままに、漆を塗り重ねていくことで、その良さが引き出されて小田原漆器は、毎日使い続けられます。その良さが引き出されていくまで、生活の中に木のぬくもりを伝えてくれる小田原漆器。一度は手にして、伝統の匠の技と深い息吹を感じ取ってみたいですね。



## 「我ら小田原応援団！」小田原評定衆からのメッセージ

全国各地で小田原の情報や魅力を発信してくださっている「小田原評定衆」の皆さん。芸術の秋の今月は、芸術活動に携わっている方々からのメッセージです。

◎市民交流課 33-1706

### ●小田原は「スマートな田舎」

吉川水城さん  
栃木県在住、陶芸作家、  
日本工芸会正会員

「生まれは東京ですが、3歳(昭和19年)のころ戦火を逃れて母の出身地の小田原に越してきました。酒匂川は毎日の遊び場でした」という吉川さんは、現在栃木県益子町にお住まいです。「離れて思う小田原の良さは、神奈川の海岸に共通する明るい屈託のなさです。それに、城下町の文化と適度に田舎なのが一体となった「スマートな田舎」という、今一番求められているキャラクターを持っていることだと思います。益子も陶芸の歴史を持つということで、それに近いものを持っているかもしれません。」



### ●新しい人々たちを小田原に引き寄せよう

榎原匡章さん  
三重県在住、手描き版画家

7年前から取り組んでいられる「全国古城絵巻五十撰」で小田原城を取り上げてくださったのがご縁で評定衆に。「絵巻は、不景気の影響で25城で一服していますが、大山市民の方がボランティアで応援してくれるのが励みです。小田原城は駅に近いし、ぼつんとあるのでなく遊べるところもあって良いですね。ただ、小田原城に行ってきたねと言っても、小田原には用事がなしと言われる。小田原を知っていただくには、写真コンテストはいかがかと思います。新しい人々たちを小田原に引き寄せてください。」



# ネットで教育、始めます!

～小田原市教育ネットワーク～

◎学校教育課 ☎33-1687



※LANとはLocal Area Networkの略。社内や学校などの限定された場所でのコンピュータネットワークのことを言います。

教育委員会では、市立小・中学校全37校にコンピュータによる校内LANの環境を構築する「教育ネットワーク」を立ち上げました。各小・中学校には、既存のものと合わせて30台～50台のパソコンが設置され、それぞれがインターネットにつなぐことができるようになりました。

## 情報化に対応した新システム

今回の整備で、市内小・中学校のパソコンの総設置台数は1,369台(平成13年9月27日現在)となりました。それぞれの回線には小田原ケーブルテレビによる1.5Mbpsの高速大容量ネットワークを利用し、市内の小・中学校間での共同学習や交流、メールやホームページによる情報収集や発信などが容易にできるようになります。(小田原ケーブルテレビサービスエリア外は、NTT専用線を使います。)今後はこのネットワークによって、教育情報や教育素材などの共有化や子どもたちによるホームページ作りなど、情報化時代に対応した学習が進められます。

また、市役所の教育委員会内には教育情報センターを設置しました。各小・中

学校全37校のネットワークを集中管理し、コストの削減やセキュリティ対策、そして教育上好ましくない情報の遮断などを行います。

この教育ネットワークシステムは、市民の方にも学校をIT講習の場としても利用いただいたり、ホームページを通して教育への関心を高めていただいたり、学習活動の幅を広げます。

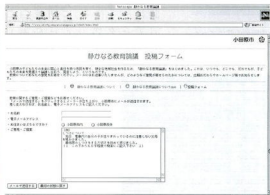
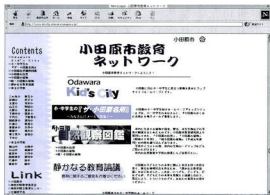
## 小田原市教育ポータルサイトオープン

また、新たな取り組みとして「教育ポータルサイト」を立ち上げました。教育ポータルサイトとは、教育関係のホームページの入り口の部分にあたるページの

こと。各小・中学校が自分の学校を紹介する「キッズ・シティ」や子どもたちから小田原の隠れた名所を募集する「ザ・小田原名所」や「小田原自然観察図鑑」などを紹介する、魅力いっぱいのページとなっています。

さらに、小田原市の進める教育改革の一つ「静かなる教育議論」のページも加えられた。これからは、静かなる教育議論をインターネット上でも展開します。このページから静かなる教育議論についてのご意見やご提案を送ることができ、寄せられたご意見については、広報おだわらやホームページで紹介します。

インターネットを利用してのさまざまなコミュニケーションへの期待が高まります。



小田原市教育ポータルサイトアドレス <http://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/>



広報おだわらホームページアドレス  
[http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kohou\\_oda/](http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kohou_oda/)

広報おだわらのホームページができました。広報おだわら(1日号)は、読み物としてもお楽しみいただけるデザインに、広報おだわら(15日号)は、イベントなどの情報検索がしやすいようなレイアウトに、それぞれ工夫しました。今後は、過去に好評だった1日号の連載もどくどく登場しますので、お楽しみに。

また広報おだわらホームページは、視覚障害者の方にもご利用いただけるよう、各種音声読み取りソフトに対応していますので、市販のソフトで声でもご案内します。なお、文字データベースとして利用価値が高いと好評の「おだわら表情いいメール」配信サービスとパソコンナビのページも引き続きご覧いただけます。これからは紙とホームページの両方で、広報おだわらをご愛読ください。

11月1日  
広報おだわら  
ホームページスタート!

# 伊豆の名湯に残された

# 北原白秋の書画、公開中!

●小田原文学館 ☎229881

このたび市が購入した北原白秋直筆の書画類全19点を、文学館特別展で展示しています。これまで一般には未公開だった大変珍しい資料が含まれている点でも見逃せませんが、白秋ほどの著名な文学者の自筆の作品がこれほど一度に世に出ること、もうないと思われれます。

これらの資料が伝えられていたのは、伊豆湯ヶ島温泉で明治初めに開業した老舗の旅館です。記録によるのと、白秋は昭和の初め以降、何度かこの旅館を訪れています。

そのきっかけは、旅館の主人の縁戚で白秋の弟の、穂積忠という歌人の紹介だったといえます。大正12年の関東大震災のときには、被害をうけた「白秋山荘」の修理のために、穂積がわざわざ三人の大人を小田原に行かせていることから、白秋と穂積は大変親しかったことが分かります。

この二人の出会い、遅くとも大正10年4月だと分かっています。白秋は同年10月末には新妻の

菊子と吉茶温泉を訪れていますから、このころにはその一歩奥の湯ヶ島まで足をのびしていても不思議はありません。

ですから、記録には残っていませんが、小田原在住時代(大正7~15年)にも白秋が同じ旅館に滞在して、いくつかの資料を書いたと考えることができそうです。「白秋山荘」の庭を歌った歌に「小田原の山荘にてうたへると書きがある掛軸が伝えられていることも、白秋が小田原時代からすでにこの旅館を訪れていたことを裏付けています。こうしたことから19点の書画類は、白秋が小田原で暮らし、穂積との交流を始めた大正10年前後から昭和の初めにかけて制作され、旅館の主人に贈られた小田原時代には「あわて床屋」や「赤い鳥小島」など、多くの名作童謡を残した白秋資料の一つに描かれている可愛らしい夜の絵にも、白秋のやさしく純粋な童謡詩人の心かじみ出しています。



歌幅  
左端に「小田原の山荘にてうたへる」との添書きがあり、小田原時代の作と考えられます。

## 【関連イベント】

小田原文学館 白秋 コース  
日時 11月23日(祝)12時50分

小田原駅西口集合(小雨決行)

コース 大木篤夫旧宅・城山公園・伝聲寺・御殿小路・文学館

対象 高校生以上30人・先輩参加費 1500円(保険料・教材費。当日集合)

申込 11月1日(木)から、市立図書館 ☎241055

小田原文学館特別展  
「書画でみる白秋の詩情」  
●小田原文学館  
☎2298801

期間 11月1日(木)~12月2日(日)

場所 小田原文学館

開館時間 9時~17時

入館は16時30分まで

大人2500円  
小・中学生1000円

## 市長随想

## 私の明神

文 小澤良明

曾我丘陵、松田山、箱根山塊、足柄平野を囲む山々々はどれも穏やかで優しい。遠望する富士のお山や丹沢は別格として、酒匂川べりから見る山並みの中で、縁起がなさからに延々と伸び、見るからにどっしりとした明神ヶ岳が特に私のお気に入りです。何かこれこそ「山あり」という感じに、足柄平野の荘、大親分のように思え、何時見ても心安まる。

古道、足柄越り前の最古の碓氷道、中腹を歩いており、東征の帰路、この碓氷道を通った日本武尊伝説でも知られる。山容の雄大さ驚くことながら、「歴史とロマン」の山でもある。

残雪の明神、新緑、紅葉の目を洗われるような美しさ、そして炎器の明神。何故か分らないが、中学時代から友人達と良く登った。思い出もさまざまある。

金時山の方から登って帰りにけもの道に迷い込んだ。闇雲に分け入って見つけた蜂川の高源流であろうか、とてつ無く大きな岩の上を必死でびよ〜跳びながら下った。真つ暗になつてようやく行き当った林道をたどひたすら歩き続け、眼下に南足柄の街の灯がほんのみにた時の嬉しかったこと、あんな危ない馬鹿なことを、と今でもぞぞとる。

友人達に秘かな引け目と口惜しさを覚えていることも、早朝、大雄山駅を出発し、明神、金時と登り、仙石、芦ノ湖畔を歩き、夜

ご存じですか？

# 固定資産税・償却資産

固定資産税課 ☎33-1362

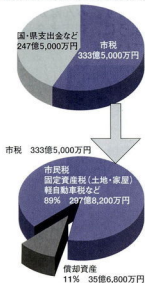


土地や家屋を所有していると「固定資産税」が課税されますが、そのほか事業者がその事業のために用いる「償却資産」にも、固定資産税が課税されています。これはどのような税なのでしょう？

「償却資産」とは、工場や商店・飲食店などを経営している事業者が、その事業のために用いている、構築物・機械・器具・備品などといった、土地や家屋以外の資産のことです。これらの資産をお持ちの方から申告をしていただき、資産の価値に応じた額を固定資産税として納めていただくのが、この税の制度です。

この税の対象は事業用資産に限られるので知らない方も多いと思いますが、市の平成13年度一般会計予算の歳入の部で、半分以上を占める市税収入のうちの1割に当たる、貴重な財源なのです。

小田原市の平成13年度一般会計歳入当初予算(581億円)



## ●対象

市内に事業用資産を所有している事業主(1月1日現在で所有している資産が対象)

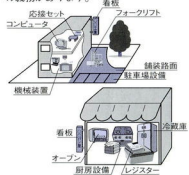
## ●対象となる資産

- 構築物(煙突・鉄塔・駐車場舗装)など
- 機械・装置(工作機械・冷暖房設備・ポンプ)など
- 船舶
- 航空機
- 車両・運搬具(フォークリフト)など
- 工具・器具・備品(測定工具・切削工具・机・椅子・ロッカー)など

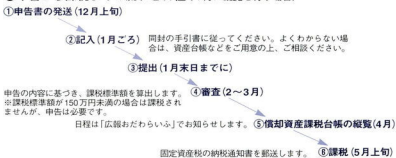
※工場などでは、旋盤・溶接機などの機械設備、構内舗装、受変電設備、パソコンなどが、飲食店などでは、厨房設備、冷蔵庫、エアコンなどが対象になります。※家庭で使っている冷蔵庫やエアコンなどは事業用の資産ではないので、申告の対象ではありません。※無形固定資産(営業権・営業権など)、

または自動車、原動機付自転車のように、自動車税、軽自動車税の課税対象となるものなどは、償却資産の対象外です。詳しくはお問い合わせください。

※固定資産税は所有者に課税されるので、リース(貸し付け)資産は、借りている事業主ではなく、貸し付けている方に申告の義務があります。



## ●申告から課税までの流れと日程(4月に縦覧を行う場合)



まだ申告をされていない事業主の方は、必ず申告してくださるようお願いいたします。

私の明神は美しい、頼もしい。

私の母校の歌の一面である。足柄平野では日は海から昇り、明神に沈む。朝も夕暮れも、四季折々も、いつも私の明神は美しい、頼もしい。

折簡、間近に見て心惹かれながらも、何十年も単に大好きな風景とのみ考え遠去かっていた明神が、私にとつて再び身近な山、特別な山となったのは数年前からである。何の準備もなくふと思いついて気軽に道了尊から登った明神の何と涼風に身を委ね、周囲の樹木と足元の草花に目をやる余裕など全く忘れ、ただ頭の中は真っ白。果てしなく続く長い登り坂に息も絶えだえ、脚はガクガク、自分の体力の衰えにガク然として、趣味は「山歩き」と近頃では広言する縁緒と歩けた山、幾つになっても端緒の切れない愛する山なのである。

私の母校ヶ岳の日が落ちりやい、私の母校の歌の一面である。足柄平野では日は海から昇り、明神に沈む。朝も夕暮れも、四季折々も、いつも私の明神は美しい、頼もしい。





# 憩いの場を きれいに！

## 11月は不法投棄・散乱ごみ撲滅強化月間

休日になると、多くの方が公園や酒匂川の河口に来て、さまざまなレジャーを楽しんでいます。ところが近年、このような皆さんの憩いの場で、迷惑な行為をする人が増えているようです。みんなが気持ちよく利用できるように、利用者全員心がけが求められています。

モラルはどこへ？

市の施設や公園のトイレ・ベンチ・電灯などが壊されていたり、落書きされたりしているのを、多くの方が見たことがあると思います。きれいにしても、またすぐいたずらされてしまうこともよくあります。いたずらする方は、ちょっとした悪ふざけのつもりかもしれませんが、実はこれらの補修のために、公園だけでも年間で100万円以上の費用がかかっています。利用者が迷惑するのはもちろんですが、このお金があれば、すべり台などの遊具を新しくしたり増やしりできるのです。

また、公園内や散歩のときに、犬を放している人がいます。「うちの犬は大丈夫」と思っていますが、動物が苦手な人もいますから、犬を連れて歩くときは、必ず引き綱をしましょう。そして、飼っているペットには排便のしつけをしましょう。子どもたちが遊ぶ砂場で、



ペットがフンなどをすることがあり、大変不衛生です。それぞれが少しづつ気をつければ、公共の場所がきれいになり、使いやすくなります。



今年5月、雨天の中行われたクリーンさかわ

出したごみには責任を持って

酒匂川河口は、月曜日になると右の写真のような状態です。

酒匂川河口のごみは、管理者である県をはじめ、市や地元自治会の皆さんだけでなく、さまざまなボランティア団体が定期的に清掃を行い、かながわ海岸美化財団が回収を行っています。回収されたごみには、パーキューの残り物や、ビン・缶が多く含まれています。楽しむだけ楽しんで、ごみはその場所に置いていく人がいるため、いつの間にかごみの山になってしまいます。平成12年度には、市内の海岸だけおよそ41ものごみを回収しています。

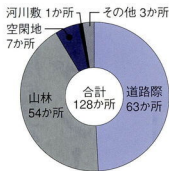
「不法投棄」というと、人目につきにくい場所にごみを放置するというイメージがありますが、公園でも、不用自転車などの放置が後を絶ちません。しかし、ごみをその場に置いて





市内の不法投棄物回収か所

(平成12年度)



**不法投棄について**

- ・環境総務課 ☎33-1475
- ・環境地区行政センター ☎22-1151
- ・小田原警察署 ☎2201100もしくは110番
- ・公園緑地課 ☎33-1583

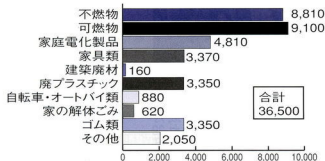
捨てることも、たばこや空き缶や紙くずのポイ捨ても、立派な不法投棄なのです。市内の公園には、原則としてごみ箱を設置していません。気持ちよく利用するために、自分たちが持ってきたものは、責任を持って持ち帰りましょう。

市では、不法投棄撲滅のために啓発看板を設置しているほか、市内全域でパトロールを行っています。また、不法投棄者の検発も警察や県と協力しながら積極的に行っており、今年度すでに9件が検発されています。

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第16条では、「何人も、この規定に違反すると、5年以下の懲役もしくは1千万円以下の罰金に処せられます。」

不法投棄するところを見かけたり、不法投棄物を見つけたりしたときは、必ずご連絡ください。

市内の不法投棄物回収量(海岸を除く) (平成12年度、単位: kg)



**11月11日(日)は  
全市一斉美化清掃の日**

家の周りをきれいにしましょう。  
環境総務課 ☎33-1475



私たちががんばってます!

**「こどもエコクラブ全国フェスティバル in おだわら」  
来年3月開催決定!**

**「こどもエコクラブ」参加者募集中**

環境総務課 ☎33-1471

「こどもエコクラブ」は、まちをきれいにしたり、リサイクル活動をしたり、自然観察をしたりする、環境問題に興味のある子どもたちの集まりです。子どもたちが地域の中で、友達と一緒に環境についての学習ができるようにと、平成7年に環境省が全国の小・中学生に参加を呼びかけたもので、今までは7万人を超える子どもたちが登録しています。

市内でも、現在48クラブ、347人の子ども

たちが活動をしていて、めざましい成果をあげています。それが評価され、「こどもエコクラブ全国フェスティバル」が、来年3月23日(土)～24日(日)に小田原市で開催されることになりました。全国のこどもエコクラブが小田原に集まる一大イベントです。

このイベントに向け、こどもエコクラブでは、市内交流会を9月から来年1月まで毎月開き、自然観察をしています。



9月に行なった「エコクラブ」市内交流会

**「こどもエコクラブ」に登録しよう**

環境問題に興味のある小・中学生のグループなら、だれでも大歓迎。会員手帳やメンバーズバッジがもらえるほか、こどもエコクラブニュースが届きます。参加費無料、いつでも入会可能。「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に参加して、全国の仲間と仲良くなっちゃおう!

# 小田原宿なりわい交流館 角吉 オープン!



## 9月29日(土)に 完成セレモニー

小田原のなりわい文化を象徴する新たな交流拠点として期待される「小田原宿なりわい交流館 角吉」がついにオープンしました。完成セレモニーには地元関係者をはじめ多くの方が訪れました。小田原硝子が始まりを告げ、大漁

木遣明に合わせ、幡旗掲揚が行われ、式典は最高潮の盛り上がりを見せました。その後、小澤市長が看板の啓幕を行い、式典は終了。みな角吉の建物的な価値や、今後の活用などについて話の花を咲かせました。

小田原宿なりわい交流館 角吉  
所在地 本町3-6-23  
☎20515  
開館時間  
観光案内・お休み処 10時〜20時  
イベント会場(2階) 10時〜22時  
休館日 原則として年中無休  
入場料 無料

## 市民とともに まちづくりを

政策総合研究所 ☎33-1315



角吉オープンの日には政策総合研究所が公開研究会を開きました。魅力ある小田原の資源を再発見するため参加者と一緒にまち歩き、なりわい交流のマップを作りました。その夜には、今後の角吉の活用などについて熱のこもった討論が交わされ、まちの活性化への思いを共有しました。政策総合研究所では、地域の個性を生かしたまちづくりを市民の皆さんとともに考えるため、第2回公開研究会を開きます。

●第一部 ワークショップ  
「おだわら車庫@板橋」  
日時 11月24日(土) 13時〜16時30分  
場所 板橋地区の「なりわい」と「水」を訪ねるまち歩きと、マップづくり

●第二部 公開研究会  
「小田原研究定スタジアム」  
日時 11月24日(土) 18時30分〜21時30分  
場所 角吉  
内容 角吉の思いの届く用水のまちづくりについて知識を寄せ合う討論会  
ゲスト テラ・マリ・カニグスさん  
(小田原町・樹一(市村酒造場取締役))  
\*各部共通  
定員 各30人・先着順  
申込 11月7日(水)から 電話で

11月11日(日)までの土・日曜日  
観光コミュニティバスが  
実験(無料)運行  
小田原商工会議所TMO事業推進室  
☎231811



角吉のオープン  
と時を同じくして、  
TMO小田原宿  
光コミュニティ  
バスの実験(無料)  
運行が始まりました。  
中心市街地に  
点在する観光拠点  
をバスで結ぶことで、まちの回遊性を  
高め、活性化につなげようとする。  
小田原TMOの新たな取り組みです。  
バスは小田原駅東口をスタートし、  
先にオープンした小田原TMOミ  
ニシアムショップや角吉などを経由  
して小田原駅東口へと戻ります。途  
中の停留所では乗り降りが自由。こ  
のルート周辺の周辺には、9つの街かど  
博物館をはじめ、小田原ならではの  
観光スポットが点在するほか、まち  
歩きやショッピングも楽しめるよう  
に考えられています。

初日には、多くの観光客がバスを  
利用して訪れました。「小田原を楽し  
むのに、とても便利ですね」と、栗野  
市など市外から遊びに来た方もメ  
ント。皆さんぜひご利用いただき、  
ご意見をとお寄せください。  
観光コミュニティバス  
実験運行コース  
小田原駅東口→小田原TMOミニ  
シアムショップ1F(1階)角吉→藤棚  
駐車場→小田原文庫館→小田原漁港  
→石垣山一夜城→箱根板橋駅→松永  
記念館→小田原駅東口

(お詫びと訂正) 広報おだわら10月15日号の「平成13年9月定例会」の記事中に誤りがありました。  
[寄付者一覧] (原)臨済宗法輪寺 → (正)臨済宗法輪寺

# みんなで稲刈り！



●農政課 ☎33-1494



10月8日祝日に市内柏山の田んぼで、一日農業体験が行われました。子どもたちは、普段使い慣れない鎌を持ち、農家の方の指導を受けながら、熱心に稲刈りに取り組みました。最初は緊張した面もちだった子どもたちも次第に笑顔がこぼれ、おとな顔負けの手つきでどんどん刈っていきました。一緒に参加したお父さんお母さんも、とっても楽しそう。もしかしたら子どもたち以上に熱心だったかもしれません。

このイベントを企画した農家の方は、「今は子どもたちが田んぼに入って遊ぶ機会もめっきり減ってしまいました。日本人の主食であるお米とそれが育つ環境について、もっと身近に感じてほしいですね」と話してくれました。最近では農業の効率化のため、刈り取りや稲の乾燥も機械でやってしまうことが多いですが、こうして手で刈り取って天日干しをするとお米は本当においしくなるそうです。

「田んぼにはいろいろな虫もいるから、観察もしながら楽しんでごらん」というアドバイスの直後、早速大きなノノサマガエルが登場。子どもたちはみなびっくりしながらも興味深そうに眺めていました。

あっという間の30分。約50坪の敷地内の稲をすべて刈り取ると、稲をたばねて作業終了です。その後は稲わらを使ったリース作りなどを体験し、取れたての新米をお腹いっぱい味わいました。

## 電気自動車で街へ

～環境省「電気自動車活用実証事業」のモニター自治体へ選出

●環境保全課 ☎33-1481

電気自動車を日常的に利用するライフスタイルが定着するかどうかを検証する、「EVマイカー検討事業」のモニター自治体へ、小田原市が選ばれました。これは、環境省が行っている「電気自動車活用実証事業」の第2段階で、**「自家用車」**をレンタカー事業者に預けて、日常生活で電気自動車を利用して、遠距離の移動などの場合にレンタカー（または自家用車）に乗り換えるという利用形態が可能かどうかを、およそ6か月間隔にわたり検証するものです。小田原市は、平成11年度より13年度前半に行われた第1段階の調査にも参加しています。今回は、三つのモデル事業のうちの一つ

に、唯一のモニター自治体として選ばれました。モニターは、前回の調査にも参加した夏目典子さんと橋清一さんと橋さん（久野）の2人です。「前回借りた時期は真夏だったので、エアコンをつけるのと充電が心配になり、あまり出出ができませんでした。今回は長距離ドライブにも挑戦してみたいですね。色や形が目立つので結構注目を浴びましたが、電気自動車そのものに興味がある人も多いと感じました」と夏目さん。「前回のモニターのとき、いろいろな人に試乗してもらって感想を聞いたり、どこまで出出できるか試したりしましたが、さまざまに利用

方法が考えられそうだと思います。今回は、家族全員での移動のときに使い分けが必要なので、がんばってモニターします」と橋さん。橋さんのホームページでは、前回のモニターの様子が細かく紹介されています。

「日経トレンド」誌10月号に掲載されていた「全国行政サービスランキング（環境編）」では、低公害車購入費補助をはじめとした環境行政サービスが評価され、全国第2位の評価を受けた小田原市。「地球環境に負荷の少ないまちづくり」に向けて、電気自動車が日常的に利用できるかどうかの生活体験が始まります。



今回のモニター、夏目典子さんと橋清一さん。「普通に使う分にはまったく問題なし、小回りがかくくの運転も楽ですよ」。橋さんの「電気自動車モニター日記」ホームページアドレス <http://www.asahi-net.or.jp/~yh2s-tsk/ev/evtop2.html>

### 低公害車体験試乗会実施！

低公害車（電気自動車・天然ガス自動車・ハイブリッド自動車など）の体験試乗と展示を行います。  
 日時 11月11日（日）10:00～15:00  
 場所 ダイナシティウエスト  
 出展台数 約30台

早雲ハワーでまちを元気に！

# 北条早雲

# 観光推進協議会 設立

観光課 ☎ 331521

戦国時代、小田原城を拠点に関東一円を治め、上方にも勝るといわれるほどの繁栄をもたらした北条氏。その礎を築いた早雲公にゆかりのある市や町が連携し、その偉業や魅力を活用した観光事業を共同で行うための協議会を設立しました。

この取り組みに参加するのは、岡山県井原市・静岡県沼津市・静岡県富士市・神奈川県箱根町・小田原市の3市2町。井原市は早雲公生誕の地、沼津市は早雲公旗揚げの城である興国寺城の所在地、箱根町は早雲公の菩提寺である早雲寺の所在地として知られ、北条氏の関東支配の拠点である小田原市とともに、早雲公と深いゆかりがあります。

この3市2町はこれまでも、史跡を巡るバスツアーやシンポジウムを共同で開催など、相互交流を行ってきました。そして平成10年に小田原市で行われた北条早雲サミットで、永い交流と連携を深める新しいふるさとネットワークを築くことなどを盛り込んだ「北条早雲サミット共同宣言」を採択したことから、正式な協議会を立ち上げて、一体となった観光事業を進めることにしました。

これからは、早雲公が理想とした



10月12日に行われた設立記念事業「まちづくり討論会」のちよう。トラベルキャスターの津田令子さんとともに3市2町の代表者が熱く語りました。

## オーストラリア・リフレッシュステイ 現地通信



オーストラリアに1か月から3か月の間滞在し、農場体験や日常生活をとおして、心と体をリフレッシュする「オーストラリア・リフレッシュステイ事業」。この事業に参加し、現地でのいろいろな体験をされている方から9月20日に届いたお便りの一部をご紹介します。

日本と季節が逆のオーストラリア。8月下旬から9月に入っています。オーストラリアにも日本と同様に三寒四温があります。各家々の庭には美しい花々が咲き出し、牧場も日々牧草が青く色づいてきました。もうすぐ暖炉の薪も必要となるでしょう。そろそろ蚊も出てきました。牧場のこの1か月の大きな仕事は、牛の出産でした。20数頭が出産。そのうちの15頭は初出産でした。通常分娩で無事に出産したものの、わたしたちが産介護したものの、残念ながら逆子で死産になってしまったものと、それぞれが大変貴重な体験でした。初めて出産介護して生まれた子牛には、桜井さんの「AYA」とい

桜井綾子さん



ハンターバレーにて



う名前がつけ、子牛たちの成長も、楽しみの一つとなっています。滞在の楽しみは、牧場の中だけではありません。先日は、1泊2日でハンターバレーへ行ってきました。80軒あるワイナリーのうち9軒を回り、いつもの牧場周辺とは違う風景や、ワインの味を楽しむことができました。日帰りでカウラ・パットバーストやマンリーにも行ってきましたが、カウラの日本庭園を訪れたときには、改めて日本の趣のよさを実感しました。深い溪谷あり、広々とした平地あり。出かけた先では、さまざまな全く違った景色に出会います。つづくオーストラリアの広大なさ思い知りまし。

# 母なる 酒匂川

mother  
the  
Sakawa

生命の星・地球博物館の学芸員が、さまざまな視点から酒匂川の魅力をリレー方式で紹介します。

荻部 治紀 (神奈川県立生命の星・地球博物館)

## 酒匂川の昆虫

姿を消した河原の昆虫たち

好評開催中!

特別展「地球を見る」  
～宇宙から見た神奈川～

12月16日◎まで  
県立生命の星・地球博物館  
☎21-1515



ミヤマアカネ：羽の赤いバンドがよく目立ちます



コサナエ：太平洋側の西限分布地です



カワラバッタ：どこにいるかわかりますか？(答え：画面中央)。忍者のように河原の石にとけこみます(絶滅?)



カワラハシミョウ：細かい砂のところに生息します(絶滅種)

### 酒

酒匂川流域では、河原を歩けば今でも数多くの昆虫に出会うことができます。しかし、昆虫相の質や多様性は以前に比べると確実に低下してきています。以下に酒匂川で見られる代表的な河原の昆虫とその盛衰を紹介します。

### ま

ず、トンボ類では、ミヤマサナエ・オナガサナエなどのサナエトンボの仲間や、おはぐろトンボとも呼ばれるハグロトンボ、ミヤマアカネなどは、今でも普通に見られます。一方、支流の用水路で

### は

は、県内での絶滅が心配されているキイロサナエが数か所で見られ、コサナエもメダカの生息する用水路で生き残っていました。この2種は全国的にも分布地が減少しており、非常に大切な生息地と言えます。

### ち

ョウ類では、定期的な出水で河原が洗われ、また茅場として草地が手入れされていた1960年代には、草丈の低い草地を好むシルビアシジミやミヤマシジミ、ツマグロキチョウが流域各地から記録されています。しかし、これらの

### こ

チョウは現在ではほぼ絶滅状態で、ミヤマシジミが開成町などでわずかに見られるのみです。減少の理由はこれらのチョウ類の食草である、ミヤコサ・コマツナギ、カワラケツメイといったマメ科植物が、安定した河原では他の植物に負けて、衰退していったことが大きな原因と考えられています。

### バ

ッタやキリギリスなどの仲間では、クツムシやマツムシなどの合唱を聞ける場所もあり、県内では恵まれた場所ですが、かつて多く見られたというカワラバッタは近年の記録がなく絶滅が心配されています。これは生息地であった河原の砂礫地にグララウドが造成されたり、四輪駆動車が乗り入れられたためと考えられます。

### 甲

れるゴミムシ類が豊富な川でしたが、フタモンマルクビゴミムシは姿を消してしまいました。また、きめの細かい砂浜に生息するカワラハシミョウ、流域の湿地で見られたアカガネオサムシも最近の記録がありません。水生昆虫

### こ

のように見えてくると、絶滅してしまっ昆虫がいかに多いかがよくわかるかと思えます。いずれかわれわれ人間が自分たちの都合だけを優先して河原を改造していった結果です。河原というのは一見広大な空間ですが、虫たちはその中でもそれぞれの好みの場所できら生活できず、われわれは知らないうちに彼らの居住環境を奪ってしまったのです。せめて今後は残った種や環境を大切にしていってほしいと思います。

### さ

で、悪化したとは言っても、悲惨な県内の自然環境の中では、酒匂川はずいぶん恵まれた場所です。ぜひ一度河原を散歩してみてください。広々とした河原と清流は、開発の進む足柄平野の中であっておきの心なご空間だと思います。河原の環境を守っていくには、結局は川を知り、川を愛する人たちが増えることしかないと思うのです。

# 「もとゐたお家」

北原白秋



もとゐたお家  
丘のうへ、  
草もぼうぼうのびました。  
のびました。

もとゐたお家、  
丘のうへ、  
草もぼうぼうのびました。  
のびました。

誰もあぬのに  
眼のやうな、  
壊れ硝子が光ります。  
光ります。

もとゐたお家  
僕ひとり、  
けふものぞきに来て見たら、  
来て見たら。

黒いひまはり  
花ななつ、  
雀下向き、つついてた。  
つついてた。

大正期に童話によって一時代を築いた詩人北原白秋は、大正7年から15年までの8年あまりを、小田原で過ごしました。白秋が30代半ばから40代のはじめまでのことで、家庭的にも、また創作活動の面でも、もっとも充実した期間といわれています。白秋の小田原時代は、大正7年3月、御幸の浜の養生館に投宿したときから始まります。そして十字町・現南町のお花畑に移り、その後天神山・現城山の伝燈寺に転居しました。大正8年に、伝燈寺本堂裏側に萱屋根、薬壁の「木庵（みづの）の家」を建て、翌9年には、洋風の「白秋山荘」を新築しました。

白秋は、その生涯に40回以上の転居をしました。その中で、小田原時代が、19歳までを過ごした故郷柳川について長い期間となりました。また、小田原は生涯で唯一自分の家を持った場所でもありました。

大正10年には長男勝太郎が誕生するなど、家族に囲まれた落ち着いた生活は、白秋の創作活動の大きな支えとなりました。小田原に移り住んだ大正7年に、鈴木三重吉主宰の児童文芸雑誌「赤い鳥」が創刊されます。白秋はその創刊に参画、童話を担当して新作童話を続々と発表、新しい児童芸術運動の中心的な役割を果たしました。

白秋は生涯に1200編におよぶ童話作品を創作しましたが、その約半数の600編が小田原で創られています。白秋は生涯に1200編におよぶ童話作品を創作しましたが、その約半数の600編が小田原で創られています。

小田原時代の代表的な作品としては、「赤い鳥小島」「播龍のうた」「あわて床屋」「ベチカ」「からたちの花」「まぢろけ」「砂山」などがあります。「播龍のうた」からは、生まれたばかりの長男への深い愛情が感じられますし、「あわて床屋」は、いきつけの床屋とその着想を得たと伝えられています。多くの人に親しまれ、今もなお愛唱され続けている「白秋童話のほとんどが、小田原で創られているのです。

本作品「もとゐたお家」は、大正15年8月1日発行の「赤い鳥」に掲載されました。発表の時期や一瞬のやうな、「壊れ硝子」という詩から、東京転居後に「木庵の家」をうたったものと考えられています。大正12年の関東大震災によって、木庵の家や白秋山荘も被害を受けました。震災直後は家の前の竹林で生活し、後に離れに仮住まいをしながら、大正15年に東京の谷中へ転居し、白秋の小田原時代は幕を閉じます。

白秋童話館では、「もとゐたお家」の自筆原稿をはじめ、「小田原時代を中心としたその生涯、詩人・歌人としての活躍のようすなどを紹介しています。

小田原は童話の宝庫といわれますが、水く歌い継がれている童話作品から、人々の交流や心魂、そして地元の人々との交流などが感じられるのは、大変感慨深いものがあります。

**小田原文学館特別展「書画でみる白秋の詩情」開催中!**  
詳しくは6ページをご覧ください。

このコーナーでは、映画・絵画・写真・小説・詩人の作品に関する小田原紹介と、小田原が描かれている作品を「存して」した。市役所広聴課までお知らせください。33-1000



# 輝く小田原人

神奈川文化賞未来賞を受賞

## 小田原少年少女合唱隊

神奈川文化賞に今年度から創設された、若い世代が対象の「神奈川文化賞未来賞」を小田原少年少女合唱隊が受賞した。国内はもちろん、海外でも高い評価を受けている実力と、活発な音楽活動や音楽によるボランティア活動などが評価されたものだ。合唱隊結成当初から指導を続けている桑原妙子さんに、お話を伺った。

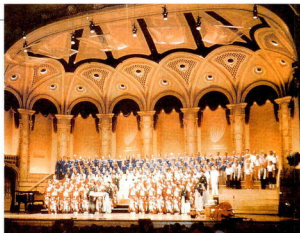
国内外を問わず、数々のコンクールで上位入賞を重ね、幅広い音楽活動を行っている小田原少年少女合唱隊。平成11年の全日本合唱コンクール全国大会では、50年にわたるコンクール史上初の、児童合唱団の金賞受賞という快挙を成し遂げている。3月には、カナダで開かれた世界児童合唱祭にアジア代表として参加し、イスラエル・南アフリカ・カナダの子どもたちと、「歌で世界に平和の架け橋をかけよう」というコンサートを開いた。

「海外への演奏旅行は個人にかかる負担が大きいので、招待を受けても行かないことの方が多のですが、視野を広げて自分を見つめ直すには、すばらしい機会です。今回は、言葉が通じないとは思えないぐらい子ども同士が仲良くなって、音楽は世界の共通語だと実感できたのではないのでしょうか。そして何より、自分たちがいかに恵まれた環境にいるかを知ったと思います。」

美しいハーモニーと豊かな表現力に定評がある合唱隊だが、専門的に音楽の勉強をする集団ではない、と桑原さんは話す。「オーディションをして」歌える子を集めている合唱団もありますが、自分の気持ちを表現して伝えたいという気持ちが大切だと思うので、「歌いたい子」は全員入れています。まず楽しく歌えること、そして心をつなげて一つのものを作り上げる喜びを経験し、協調することを学んで、思いやりの心を育てたいと願っています。」

屈指の実力を誇る陰には、指導者や隊員はもちろん、活動を支えてきた後援会など、それぞれが積み重ねてきた努力がある。しかし、子どもが減ってきていることやおやみ練習場の問題など、悩みはつきないようだ。

「でも、子どもには無限の可能性があるなあとつくづく思います。プロを目指す



3月にカナダで開かれた世界児童合唱祭でのコンサート。

合唱隊は昭和38年10月結成。保護者運営の奉仕活動として活動を続け、卒業生は2,000人を超えている。現在、小学校1年生から高校3年生までの62人が在籍。12月23日(祝)にはクリスマスチャリティコンサートを、12月24日(休)には新隊員募集を行う予定。



昨年11月には東京駅で童謡コンサートを開催。

子もいますけど、一緒に歌う中で年上の子が年下の子の面倒をみる習慣が自然についているせいか、保母さんや看護婦、学校の先生になる子が多いんです。人の世話をするのが好きになるのかもかもしれませんね。」

人として一番大切な「やさしい心」が育つ場になるようにという目標が、着実に実を結んでいるのだろう。今後のいっその活躍が期待される。



献身的な指導を続けてきた、代表で指揮者の桑原妙子さん。「受賞を聞いてびびりました。今まで取れなかった子どもたちの、努力へのこぼれだと思えます。」

10月13日(土)・14日(日)、小田原フラワーガーデンでグリーンフェスタ21が開かれました。緑のフリマ・マーケットや園芸相談、樹木名当てクイズなど花や緑を思い切り満喫するイベントは、多くの人でにぎわいました。人気のおさるほりんは、子どもたちの歓声が響きわたり、広場で行われた小田原の陣子では、その音色にみんな聞き入っていました。溪流の梅林では、野点も開かれ、大人も子どももみんなが楽しんだ一日でした。



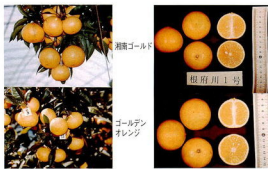
## グリーンフェスタ21開催!

📍フラワーガーデン ☎34-2814



小田原  
彩  
時記

## 小田原オリジナルみかん その名も「湘南ゴールド」



みかんの産地として名高い小田原。中でも海からの風と太陽の恵みをいっぱい受けた片浦地区のみかんは人気商品です。その片浦地区で新しい品種の開発が行われています。その名も、「湘南ゴールド」。湘南ゴールドは、普通のみかんよりも遅めの4～5月に収穫されます。甘みが多さやわやかで果汁が多いと、今人気の品種「ゴールデンオレンジ」の味に加えて、一回り果実が大きく、皮が薄くてむきやすいという特徴があります。湘南ゴールドは5年後の商品化を目指して研究開発が進められ、完成すれば小田原のオリジナルブランドとして登録されます。



「みかんは一日3個食べると、ガンの抑制作用があるとも言われています。皆さんみかんを食べてくださいな」と、開発者で農業研究所併府川試験場の鈴木博一さん。

# がんばる 小田原の農業

農政課 ☎33-1494



新世紀を迎え、小田原は新たなチャレンジを始めました。農業もまた例外ではありません。そこで21世紀の元気な小田原の農業を紹介しましょう。

## あなたも今日から 玉ねぎのオーナー!

ここ数年のうちに脚光を浴びるようになった下中地区の玉ねぎ。全国でもこのあたりでとれたのが一番甘いと言われています。市では、この玉ねぎづくりが楽しめるユニークな制度を始めました。この「玉ねぎオーナー制度」では、整備した玉ねぎ畑を借り受けられ、区画でとれた玉ねぎはすべてオーナーのものとなります。苗の定植から収穫まではJAおだわら下中支店青年部によるお手伝いが受けられます。そして収穫時には、とれたての新鮮な玉ねぎを調理してくれるサービス付きです。ちまたでは家庭菜園ブーム。ご家族そろって楽しんでください。



### 玉ねぎのオーナー募集

- 期間 11月23日(祝)定植～5月中旬収穫予定
- 場所 JAおだわら下中集出荷場付近の畑
- 対象 50区画・先着順
- 費用 1区画2,500円
- \*1区画で180玉収穫予定
- 申込 11月12日(月)までに、JAおだわら下中支店 ☎43-0312



植家族化の進む近年、大きい玉ねぎは1回の料理で使い切れないので、小さな玉ねぎを作るため畑に穴の空いたビニールをしくなど、いろいろな工夫もされています。

## じつは県内一番の生産量! 小田原のゆず

「橘地区は、みかんを作るにはちょっと寒いようで、いいものはないかと探しているときにゆずを見つけました」と話すのは、小竹ゆず組合の小澤守さん。20トンのゆず生産量があるのは、県内ではここだけです。冬至用やまつたけのツマなどに使われる青ゆずを、東京や横浜に卸しています。ゆずの産地は群馬県などもっと寒い地域が多いのですが、小田原のゆずは多いのが人気のなさそうです。これからの季節には、体の温まるゆず湯がおすすめ。白菜漬けの香り付けにもいいし、肉厚のものは砂糖煮で煮てもおいしいです。



「ゆずの焼酎付けは、風邪にもよく効きます」と、小竹ゆず組合の皆さん。ゆずは11～12月が収穫の時期。収穫の一部は「かあちゃん」の店(☎43-3693)で直売します。

\*ゆずの焼酎付けは、ゆずを皮をむかずにくくと焼酎に漬け込み、色が変わってきたら(10～15日くらい)出す。